

復興に向けて歩き出す 地域の未来を描く計画を

「震災を乗り越えて、地域の皆さんが仲良く幸せに暮らせるまちづくりを目指し、復興計画について話し合いたい」と話すのは、甲佐町復興計画策定委員会の委員を務める宮本浩市さん（田原区）。



宮本 浩市さん
Miyamoto Koichi

〔田原区〕

みやもと こういち / 本町の震災復興の方針を示す「甲佐町震災復興計画」の素案を作成する町復興計画策定委員会の委員。田原区長。

同委員会は、熊本地震による被災者の生活再建に向けた取り組みや被災地の面的な整備方針、将来にわたって安全・安心な生活環境を確保するための方針などを示す「甲佐町震災復興計画」の素案を

作成するために、8月に設置。一般公募で選ばれた町民と職員で構成され、本町復興のために必要なことを考える。これまでに、ワークショップなどで復旧・復興に関わる意見交換などを実施。11月の策定を目指している。

宮本さんが区長を務める田原区は、道路の寸断や家屋の倒壊で支援助資が届かなかつたり、避難所に行けずに倉庫

や納屋に避難したりする人も多かった。自身も被災し自宅を解体、現在は白旗仮設住宅で暮す。宮本さんは、「町内でも特に被害の大きかった地区の代表として、委員に手を挙げないわけにはいかなかった」と振り返る。

委員として「被災した人のために、復興に真剣に向き合っていかなければならない」と宮本さん。「第1に被災者のことを考えた住まいづくり、次に農業振興が重要。今後計画される復興住宅も大切になる」と思案する。

震災を通じて失ったものも多かったが、人と人との絆（ぎずな）も見えたという宮本さん。「高齢者などを気遣う人も多くいて、地域のつながりを改めて実感しました。計画では、このつながりを大切に、地域で仲良く暮らせるコミュニティを形成したい」と意気込む。

「未来はまだ具体的には見えてきません。でも、復興に向けて一歩ずつ前に進みたい」と宮本さんは、地域への思いを胸に前に進む。

広報 こうさ

2016年（平成28年）10月号
通巻567号